

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日：2022年 9月 25日
- 事業名：外国にルーツがある家庭支援事業
- 資金分配団体：一般財団法人大阪府人権協会
- 実行団体：特定非営利活動法人ほしぞら&ふれあいハウス鳴滝

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
お互いの食文化を外国ルーツのある子や親、地域住民が知りそのことをきっかけに話ができるか。	話のできた件数や内容	食堂やイベント開催時にお互いの食文化の披露をすることで話ができている状態	2024.2	事業に参加する親子（7世帯）と地域住民（10世帯）が事業当初に比べ文化交流ができている。	2
地域住民が食堂について関心を持っているか。	地域住民の関心の持ち度合い（を調べるために意識調査をする）	地域住民の関心がある人たちが8割等（関心を持ちコミュニケーションが取れている。）	2024.2	事業に参加する地域住民の4割が関心を持ちコミュニケーションが持てている。	2
独居高齢者を含む地域住民が外国ルーツのある子や親を気にかけるようになっていくか。	気かけ度合い（を調べるために意識調査をする）	食堂に参加する地域住民の気にかけている人が8割等（親子が食堂をお休みする時や食堂以外の場所で出会う時に声をかけることができている。）	2024.2	親子が食堂をお休みする時や食堂以外の場所で出会うときに声をかけることが出来ている。	2

外国ルーツのある子どもと親にスタッフが丁寧な関係を築けているか。	話ができた件数や内容	事業利用当初に比べ事業参加者参加回数や会話が増えている。	2024.3	事業に参加する親子（7世帯）が事業当初に比べ参加回数や会話が増えている。	2
外国ルーツの親がスタッフに相談できているか。	相談回数とそれぞれの相談内容	さまざまな相談内容で関わっている外国ルーツのある親子全員から相談のある状態等。	2024.3	事業に参加する親子（7世帯）が事業当初に比べ相談回数が増えている。	2
スタッフが家庭（世帯）の状況をアセスメントしケース対応ができているか。	アセスメントできた世帯数	11件アセスメントできるようにする（校区内の外国ルーツのある23世帯中（小学校11件）（中学校12件）50%に相当等）	2024.3	現時点では、事業に参加する親子（7世帯）のアセスメントができている。	2
外国ルーツのある子ども達の学習意欲が高まっているか。	週2回以上学校以外で学習ができ学習に向けた意欲が向上している。	テストの点数があがった、学校授業に参加し学習に取り組むようになった。	2024.3	現時点で、外国ルーツのある子ども7人が事業当初に比べ、学習への参加が増えた。	2
外国ルーツのある子ども達が学生ボランティアに相談できているか。	相談回数 相談内容	外国ルーツのある子どものうち3人が相談できている。	2024.3	学習に参加する中学生3人が学習や進路等について相談できている。	2
連携している小中学校や市内の教員や行政が対象の子ども達や取り組みに関心を持っているか。	関心の持ち度合い	関心を持っている教員や行政職員が2割になる	2024.3	連携している学校以外からの教員の応援や行政職員の見学、相談がある。	2
短期アウトカムの指標および	関係者において適切なタイ	短期アウトカムの再検討がで	2024.3	連携学校、事業実施スタッ	2

目標値を改善する必要があるか。	ミングで短期アウトカムの達成度合いや目標について検討し合意ができています。	きている。		フ、法人と月1度の連携会議と短期アウトカムの達成度合いや目標についての検討会議を6月に1度開催。	
事業を担う人材が育っているか。	一つの事業を企画し運営まで担うことのできる人材がそろっている。	事業を担う人材の増加数。	2024.3	事業スタッフ1名から2名に増加、事業の企画、運営を担うことができている。	2
外国ルーツのある子どもが希望する進路選択ができているか。	相談回数 相談内容	学生ボランティアのかかわりで進学へのイメージが持てている。希望する進路について話ができている。	2024.3	現時点では学習に参加する中学生3人が学習や進路について相談できている。希望する進路について事後評価で計る。	2
市内に住む外国ルーツのある親子が相談できている居場所が増えているか。	外国ルーツのある親子が相談できている居場所を知り、利用できている。	増加した相談できる居場所。	2024.3	相談できる居場所については事後評価で計る。	2
想定していなかったアウトカムが発現しているか。	ステークホルダーにおいて想定していない良い結果がみられている。	事業当初に比べ良い状態。	2024.3	想定していなかったアウトカムについて、事後評価で計る	2
インプットに対し効果的にアウトカムを発現させることができているか。	インプットとアウトカムの比較。	十分に許容できる比較	2024.3	インプットに対し効果的にアウトカムを発現について事後評価で計る。	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
新型コロナウイルス感染がたびたび拡大し、事業に参加できない自宅待機になる子どもも増え、そのことで学校との情報共有の作業や連携がより深まった。参加が困難な子どもへの訪問型の事業（宅食）などの新たな事業が生まれた。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価全体の管理者／評価報告作成者	河部理香子	事業責任者
内部	関係者ヒヤリング／文献調査／評価実施	倉橋全代	事業担当者
内部	関係者ヒヤリング／評価実施者	藤本萌	事業担当者
外部	知見の提供	栗健造	連携小学校教諭
外部	知見の提供	日根野谷理香	連携中学校教諭
外部	地見の提供	村瀬玲	連携中学校教諭
外部	知見の提供	尾川紀子	連携小中学校補助員

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
外国ルーツのある親子、地域住民	話ができた件数や内容	食堂やイベント開催時にお互いの食文化の披露をすることで話ができていく状態	2024.3	食堂やイベント開催時にお互いの食文化の披露をすることで話ができている。事業に参加する外国ルーツのある親子が増加した。
地域住民	地域住民の関心の持ち度合い（を調べるために意識調査をする）	地域住民の関心がある人たちが8割等（関心を持ちコミュニケーションが取れている。）	2024.3	事業に参加する地域住民の4割が関心を持ちコミュニケーションが持てている。

外国ルーツのある親子、地域住民	気かけ度合い（を調べるために意識調査をする）	食堂に参加する地域住民の気にかけている人が8割等（親子が食堂をお休みする時や食堂以外の場所で出会う時に声をかけることができる。）	2024.3	親子が食堂をお休みする時や食堂以外の場所で出会うときに声をかけることが出来ている。
外国ルーツのある親子	相談回数とそれぞれの相談内容	事業利用当初に比べ事業参加者参加回数や会話が増えている。	2024.3	事業に参加する親子（7世帯）が事業当初に比べ参加回数や会話が増えている。
外国ルーツのある親子、事業スタッフ	アセスメントできた世帯数	11件アセスメントできるようにする（校区内の外国ルーツのある23世帯中（小学校11件）（中学校12件）50%に相当等）	2024.3	事業に参加する親子（7世帯）のアセスメントができている。
外国ルーツのある子ども	週2回以上学校以外で学習ができ学習に向けた意欲が向上している。	テストの点数があがった、学校授業に参加し学習に取り組むようになった。	2024.3	外国ルーツのある子ども7人が事業当初に比べ、学習への参加が増えた。
外国ルーツのある子ども、学生ボランティア	相談回数 相談内容	外国ルーツのある子どものうち3人が相談できている。	2024.3	学習に参加する中学生3人が学習や進路等について相談できている。
小中学校の教員、行政	関心の持ち度合い	関心を持っている教員や行政職員が2割になる	2024.3	連携している学校以外からの教員の応援や行政職員の見学、相談がある。

事業実施法人	関係者において適切なタイミングで短期アウトカムの達成度合いや目標について検討し合意ができています	短期アウトカムの再検討ができています。	2024.3	連携学校、事業実施スタッフ、法人と月1度の連携会議と短期アウトカムの達成度合いや目標についての検討会議を6月に1度開催。
事業実施法人	一つの事業を企画し運営まで担うことのできる人材がそろっている。	事業を担う人材の増加数。	2024.3	事業スタッフ1名から2名に増加、事業の企画、運営を担うことができています。
外国ルーツのある子ども	相談回数 相談内容	学生ボランティアのかかわりで進学へのイメージが持てている。希望する進路について話ができる。	2024.3	学習に参加する中学生3人が学習や進路について相談できている。
外国ルーツのある親子	外国ルーツのある親子が相談できている居場所を知り、利用できている。	増加した相談できる居場所	2024.3	事業を通して、行政や他機関と連携することによって、事業対象者への関心がうまれている。(行政が作成するパンフレットの翻訳、通訳派遣など)
事業実地市町村	ステークホルダーにおいて想定していない良い結果がみられている。	事業当初に比べ良い状態。	2024.3	想定していなかったアウトカムについて、事後評価で計る
実施事業	インプットとアウトカムの比較。	十分許容できる比較	2024.3	インプットに対し効果的にアウトカムを発現について事後評価で計る。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>事業の開始時に比べ参加する外国ルーツのある子どもと、その家族が食堂やイベントへの参加する回数が増え、地域住民とのコミュニケーションがとれ、お互いの関係性がつくれ関心をもちはじめている。学習支援に参加する子どもの学習意欲の向上や学校との継続した連携、行政や他の学校相談機関も事業に関心を持ち、新たな連携が生まれていることは、これまでの活動をとおして把握した変化であり、短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがあると考ええる。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	お互いの食文化を外国ルーツのある子や親、地域住民が知りそのことをきっかけに話ができるか。	食堂やイベント開催を通じてお互いの食文化や地域で暮らす同じ住民であることを知り関係性がつくられている。	地域とのつながりがない外国ルーツのある親子に対し、連携する学校と共に事業の周知や当事者が参加しやすい環境を作ることをおこなった。スタッフとの関係性がつくられたことから、今後の食堂やイベントの開催時のスタッフとして地域とかかわることができる。と考える。
実施状況の適切性	地域住民が食堂について関心を持っているか。	事業当初より現在の住民参加者は増加している。	事業周知について地域関係団体からも協力をいただき、その結果、事業当初に比べ参加者数は増加している。
実施状況の適切性	スタッフが家庭（世帯）の状況をアセスメントしケース対応ができてきているか。	事業開催前後にはスタッフが当事者自宅へ訪問することで暮らしの状況を見ることができ困りごとなどを早期発見できている。	事業を進める中で当事者の暮らしを知ることができている。関係性のできているスタッフには困りごとなど話はできている。身近に住む地域住民同士の関係性を築くことには、まだまだ時間が必要であると考える。
実施状況の適切性	外国ルーツのある子ども達の学習意欲が高まっているか。	学校授業に参加し学習に取り組めるようになった。	週2回の学習会に参加することをきっかけに学校授業へ参加できるようになる。家庭での学習はまだまだ厳しく、基礎学力を上げるためにも個々の学力をサポートする個別の学習プログラムが必要であると考える。そのためにも学校と連携が今後も必要である。

実施状況の 適切性	外国ルーツのある子ども 達が学生ボランティアに 相談できているか。	事業に参加する子供 たちと学生ボランテ ィアが関係性を築き 進路についての話が できるようになって いる。	事業に参加する子ども達の進路についての情報が少ない、高校生、 大学生ボランティアからの受験経験などを聞くことで進学へのイメ ージがつかめている。しかし経済的理由で進学を選べないこともあ と考え、学校と親との対話や情報の共有が必要であると考え。奨 学金を活用する他の相談機関との連携や適切な誘導も必要であると 考える。
実施状況の 適切性	連携している小中学校や 市内の教員や行政が対象 の子ども達や取り組みに 関心を持てているか。	連携している学校以 外からの教員の応援 や行政職員の見学、子 どもの受け入れ相談 がある。	子ども達の学習意欲の向上や授業に参加できるようになった子ども 達の変化により、連携している学校の教員の関心度が高まり事業へ の応援体制が高まっている。連携小中学校以外からの教員の応援や 行政職員の見学、子どもの受け入れの相談など件数が増加した。必 要性があることと事業への関心度が高まったと考える。
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有	関係者において適切なタ イミングで短期アウトカ ムの達成度合いや目標に ついて検討し合意ができ ているか。	事業実施にあたって アウトカムの目標を 達成するために	連携学校、事業実施スタッフ、法人と月1度の連携会議と短期アウ トカムの達成度合いや目標についての検討会議を定例でおこなうこ とで短期アウトカムの達成度合いや目標を確認し検討できると考え る。
組織基盤強化・ 環境整備	事業を担う人材の育成。ス タッフの役割をわけ効率 よく事業を展開できてい るか。	事業スタッフ1名から 2名に増加、事業企画、 運営を担うことがで きている。	事業開始からスタッフを増員し、役割を分け、事業を円滑に進める ことができた。役割を分けることで事業の進捗状況などを丁寧に共 有することで事業目的を達成するための素子づくりができています と考える。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

外国ルーツのある子どもとその家族が集える食堂と学習支援に取り組んだことで、地域、学校、行政が事業（外国ルーツのある家族の課題）に対しての関心が高まった。イベントでは外国ルーツのある家族もボランティアスタッフとして参加してもらうことで、地域住民ボランティアやスタッフとの関係性が深まった。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・ 事業に参加するボランティアの参加増加 30名→60名（当事者・学生・地域住民）
- ・ 連携小中学校教員以外の他校教員からの応援
- ・ 行政、地域相談機関との新たな連携
- ・ 地域住民や他の機関からの食材支援
- ・ 行政が開催する日本語教室との連携
- ・ 市内子ども食堂のネットワーク化



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>外国ルーツのある子どもとその家族が利用できる社会資源はとて少なく、地域とのつながりもない状況である、また専門的な人材、ボランティア育成の機会もなかったことにより外国ルーツのある子どもと家族をサポートする人材も不足している。ことから今回の事業計画の内容について合致していると考え。しかし、事業を進めるほど取り組む課題が大きく人員体制に厳しさを感じている。残りの事業が円滑におこなえるように、連携機関（学校、行政、子ども食堂ネットワーク）との強化に取り組み。外国ルーツのある子どもと家族が適切な支援が利用できる居場所や仕組み、地域のつながり作られると考えられる。本事業の「外国にルーツがある家庭支援事業」が達成するまでに要する時間やコストは大きい、市内全体への波及スピードやコストについては妥当だと考える。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

行政や地域相談窓口との連携、新たにできた市内子ども食堂のネットワーク化の実現などに取り組めた、その連携をより強いものにし外国ルーツのある子どもとその家族を支える人と居場所づくりに取り組みたいと考えている。

- ・行政施策の働きかけ
- ・相談支援の他機関との連携
- ・外国ルーツのある子どもとその家族を支える人づくり

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

